



ジャカルタ1998年5月

西村重夫\*

アル・アズハルのアザーンは、諸行無常の響あり、香しムラティの花の色、盛者必衰の理をあらわす。

驕れる者久しからず、ただ春の夜の夢の如し。猛き人もついには滅びぬ、ひとえに風の前の塵に同じ。

三十余年にわたって栄華を極めたスハルト「王朝」は、1998年5月に終焉を迎えた。私は、ちょうどこの時期、東南アジア研究センターのジャカルタ連絡事務所に駐在しており、随時、ジャカルタの様子をeメールでセンターほかに送信した。

この現地通信は、5月17日に私がホテルへの避難を余儀なくされるまでの間、センターほかに送信したメールをまとめたものである。一部誤字訂正をしているが、全体としては、メールの原文を忠実に掲載することを心がけた。

#### インドネシアの憂鬱

Mon. 11 May 1998 11:03:34

今日は、インドネシアの休日。ワイサクの祝日です。ワイサクとは何かというと、仏教のありがたい祭です。何があるのかよく分からないので、インドネシアの百科事典をひもといてみました。ところが、それでなくてもよく分からないインドネシア語の文章に意味不明の仏教用語が満ちあふれていますから、ますますもって了解不能です。どうやら、よく分からないということがすなわち、ありがたいことなのでしょう。

ジャカルタ発のメールは、久しぶりになります。4月28日に日本から「帰国」しました。その後メール通信しなかったのは、学生デモに参加して

逮捕拘束されていたためではありません。物価高騰に生活が困窮し、在留邦人を相手にゆすりたかりをして忙しかったわけでもありません。ただ単にインターネットのモデムが壊れていたからです。インドネシアの通信インフラの劣悪さには、かねてよりあきれはてていますが、ついにこのモデムも、通貨危機、経済危機のあおりを受けてか、死亡宣告を受けてしまったのです。

それにしても、インドネシアの現在は、ますますタイタニックングしています。スハルトが、自分の任期が終了する2003年までは、国民の要求する「改革」を行わないと発言するわ、国会には事前に知らせず、ある日突然、石油、電気の公定料金を大幅値上げするわ（正確には、5月4日のこと）で、その度にタイタニックングの度合いがエスカレートしています。

一昨日、ジャカルタ暮らしに嫌気がさしたので、ジャワの南海岸へ旅しました。ニヤイ・ロロ・キドゥル（伝説の南海の女王）の神秘不可思議な力を授けてもらおうといった殊勝な考えから旅に出たわけではありません。単に、ジャカルタの憂鬱から解放され、心をいやしたかったからです。ところが、ジャカルタを後にしても、インドネシアの憂鬱からは解放されることはできませんでした。

南の海へ向かう山道。山賊にはあいにく出会いませんでしたが、山賊もどきには嫌になるほど出会いました。舗装がこわれ、車がスピードダウンを余儀なくされるところに差しかかると、必ずといっていいほど若者たちが群がってきました。端的に言うと、「通行税」の要求です。江戸時代に関心のある方。インドネシアでは、今でもインフォーマルな関所がいたるところにありますから、調査なさってください。

圧巻は、ボゴールの近郊を通りかかったときのこと。時は、5月9日正午。ジュアンダ大学とい

\* 京都大学東南アジア研究センター；Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

う私立大学では、学生たちが大規模な集会をしていました。ジルバブ（イスラームの服装）姿の女子学生が目につく学生の集団が広場に整然と並び、それを機動隊ルックの警察官が嚴重に取り囲んでいました。野次馬根性はありながらも、基本的には小心者で傷心者の私は、しばらくの間ながめていただけで、写真を撮ることもなくその場を去りました。しかし、その場での緊張感は、ニヤイ・ロロ・キドゥルの世界に身を投じた後も続きました。

ジャカルタへ戻ってから新聞を読むと、私が小心的・傷心的野次馬行動をとった3時間後、一人の警官が投石のターゲットとなって死亡したという記事が一面に掲載されていました。警官だから新聞記事になったものの、学生サイドにどの程度の被害者が出たかは不明です。この事件で「行方不明」になった学生も、また数多くあらわれたことでしょう。

どうしてあの時写真を撮らなかったかと残念がる反面、自分がマスコミ報道の対象にならなかったことに胸をなでおろす旅となりました。ワイサクの今日。私の心は、どのような形をして、インドネシアのいまに現出するのでしょうか。インドネシアの憂鬱は、エンドレスの状況です。

### 戒厳令の夜

Wed. 13 May 1998 21 : 16 : 34

ジャカルタの空の玄関スカルノ・ハッタ空港からジャカルタ市内へ向かうには、通常、高速道路を利用します。スハルトの長女トゥトゥット社会大臣がオーナーであるこの高速道路によって、快適なインドネシアの旅が保証されていたのは、昨日までのことでした。

警察の発砲により昨日6人の死者を生んだトゥリサクティ大学や学生デモの目的地の一つである国会議事堂に面するこの道路は、現在、完全に閉鎖されているばかりでなく、ジャカルタの幹線道路であるステイルマン通りも事実上、使用が不可能な状態になっているとのことです。

ところで、トゥトゥット社会大臣の学歴を調べてみますと、「トゥリサクティ大学で講義を受けた

経験あり」とあります。学歴の真相はつまびらかではありませんが、どういう形にせよ彼女がかつて学んだ大学で起きた悲劇が彼女の高速道路を閉鎖させたのみならず、彼女や彼女の父親の政治生命をも脅かすようになっていたとは、まさに歴史の皮肉としかいえないような気がします。

先ほど所用があつて、ブロックMのパサラヤというアブドゥル・ラティフ観光大臣（彼の学歴は、「日本の西武デパートで研修」とある）所有のデパートへ出向きました。駐車場はガラガラ、店内はガラガラで、一瞬、お化け屋敷に入るような不気味さに襲われました。いつも笑顔を振りまく店員の表情はかたく、7時半頃には、そわそわと身支度を始めていました。このデパートは通常9時半閉店なのですが、突如、今夜は8時に閉店するというアナウンスが流れてきました。店員は何も語ってくれなかったので、運転手のジュンピに聞きますと、パサラヤ近くのプルタミナ病院に警察の暴力で瀕死の重傷を受けた学生が何人か収容されているとのことでした。

オフィスに帰ると、私の一時帰国からの「帰国」以来、オフィスの治安問題でお世話になっている日本大使館の東山さんからファックスが送られてきていました。「在留邦人の皆様へ」から始まるそのファックスの内容は、外出禁止を促すものでした。

単なる噂か分かりませんが、ジュンピやインドネシア大学の学生などの情報を総合してみますと、5月20日に全国の学生がジャカルタに集結し、その時「何か」が起きるとのことです。

インドネシアには、暗雲が漂ってきています。

ジャカルタ 5月14日

Fri. 15 May 1998 00 : 33 : 45

すっかり無政府状態となったジャカルタよりお伝えします。

ジャカルタの情勢については、各種のマスコミ報道ですでにご承知のことが多いと思います。以下は、私自身が目で見、耳で聞いたことに基づいた5月14日のジャカルタ・レポートです。ちっとも楽しくないレポートであることを、あらかじめ

ご承知おきください。

午前6時半

起床。昨夜通行が不能状態であったことを聞いていたスディルマン通りまでジョギングをする。心もち閑散としている気もするが、いつもとさほど変わらぬ車の流れ、サラリーマンの出勤風景に安堵する。

午前7時半

朝食をとりながら、朝刊に目を通す。カイロにてスハルトが「国民がもう望まないならば、大統領職を辞職する」と発言したとの見出しがトップ。しかし、中をよく読むと、あくまでも条件付きの辞職であり、仮に辞職した場合でも、パンディト（土屋さんの訳を引用すれば、「おのれの意志を完全に統御することによって、人知の及ばざる宇宙の秘蹟を知りうる者」。土屋健治著『インドネシア民族主義研究』、p.38）として、国民の「後ろからつきしたがっていくが」国民から「注意をそらさない」（いずれも土屋さんの前掲書、p.492より）ようにするとの意志を表明。

一方、警察軍の発砲により殺害された学生に対しては、「改革の英雄」「改革の闘士」の称号を呈する新聞記事が多い。

テレビのチャンネルを回すと、国営放送がスハルト大統領の声明を代読するハビビ副大統領の姿や記者団に囲まれたウィラント国防大臣の姿を報道しているのに対し、民放は、昨日焼き討ちされた華人商店街の様子をリアルに映し出す。

次々と出勤してきたアミニおばさん、ジュンピ運転手が出勤途中の町の様子を報告する。いずれも、町に秩序がない状況を語っていた。

午前10時半

田中さんが、所内関係者緊急ミーティングでの提案を電話で知らせてくれる。バンコクへの脱出という提案があったので、大使館の加藤さんに尋ねたところ、私が所持する公用パスポートでは、タイへは行けないとのこと。大使館へ出向くことにする。

午前11時

ルピアのストックが底をついていたので、スディルマン通りの第一勲業銀行に行く。町は、不気味な静けさ。商店は軒並み閉まっている。BNI銀行の前には、爆弾でも仕掛けられたのだろうか、大勢の人が銀行の外へ出てきており、取材記者が撮影をしている。

ジュンピに指摘されたのであるが、交通取り締まりの警察の姿がまったく見られない。かわって、「忍者部隊」と呼ばれる特殊部隊が仮面ライダーさながらのスタイルで群れをなし、オートバイで走行している。

銀行では、見知らぬ客が「混乱だ」と声をかけてくる。スキップちゃんと私が勝手に呼んでいる普段元気な女子行員には、スキップがない。両替をすると、1円が74.33ルピア。ルピアが急落している。

午前11時半

大使館の領事部へ行き、パスポートの渡航先にタイを追加してもらう。事前に話をしておいたため、手続きはスムーズに進み、3時前に取りに行くように言われる。もっとも、日本人は、私以外は、あと一人いただけ。教育アタッシュェの加藤さんの部屋をのぞいたが、ミーティングのために不在。帰ることにする。

独立広場手前のロータリーでUターンしようとしたところ、大統領官邸の方向に黒煙が上がっているのが見える。車の中から写真を撮る。タナアバンへ向かう通りは、機動隊がバリケードを築き、道路を遮断している。こちらは、写真を撮る勇気が起きない。

一昨日死者を出したトゥリサクティ大学と双壁をなす私立の名門校アトマジヤ大学のキャンパスでは、学生が集会を行い、警察軍が、学生がキャンパスの外へ出ないようにと取り囲んでいた。

警察の取り締まりがない道路は、秩序がなく、あやうく左の車線から突然割り込んで来た車に接触しそうになった。ジュンピは、こんなときに運転するのはうんざりだと言う。

## 現地通信

午後1時

昼食の後、ひたすらテレビを観る。インドネシアの放送局の報道より、CNNやオーストラリアの報道の方が迫力があり、そちらを中心に見続ける。一方、インドネシア国営放送といえば、科学技術教育の振興セミナーに文部大臣が出席したやら、カナダ政府が女性の職業訓練プログラムに援助したやら、平和なニュースを流しているのにあきれる。

午後2時半

大使館にパスポートを取りにいこうとも考えたが、ジュンピがとてもそのような状態ではないと主張したので、あきらめる。大使館の東山さんに問い合わせたところ、このような非常事態の場合、たとえパスポートが不備であっても、国外へ出ることは可能であると教えてくれる。

ところで、スカルノ・ハッタ空港、空港へ通ずる高速道路が閉鎖の状態であるそうだから、バンコク脱出作戦はあきらめることにする。

午後3時

空港が閉鎖だから、シンガポールから送られてくる朝日新聞の国際衛星版は届かないと思い、センターの首藤さんに電話し、日本の新聞のインドネシア関連記事をファックスで送ってくれるよう依頼する。ちなみに、インドネシアの夕刊も届かなかった。

午後4時

ジュンピが北の空に黒煙が見えるというので、屋上のパラポラアンテナが設置されているところへ上がったところ、確かにコタの方向に灰色の煙が広がっている。スマルニの話だと、発砲音も聞こえたとのことだが、私の耳には届かなかった。

午後4時半

アミニとジュンピを早めに帰す。インドネシア人スタッフは、家族との電話連絡をしきりに行っていた。



**写真1** この写真からはよく分からないが、ジャカルタ連絡事務所から北の空を見ると灰色の煙が広がっていた。(1998年5月14日)

午後5時半

ジュンピから電話があり、半旗を掲げる方が良いとの助言を受ける。ウンディンに頼んで、近所の様子を見にいってもらった後、アドバイスのとおりしてもらう。

午後6時

連絡事務所担当の田中さんに電話をかけ、ジャカルタの様子を報告する。電話をした直後、所長の立本さんから電話が入り、同じことを報告する。ホテル・ヒルトン宿泊を勧められるが、ホテルへの移動自体が困難だと伝える。結局、オフィスに籠城することとなるが、立本さんからは、火災に注意するよう助言を受ける。

午後7時

大阪の朝日新聞本社より電話があり、取材に応じる。その後は、ジャカルタ在住日本人からの電話に応じたり、eメールのやりとりをしたり、テレビのニュースをみたり、パソコンでフリーセルをしたり、マインスイーパーをしたり。気がついたら、時計は5月15日。

15日は金曜日。言うまでもなく、ムスリムの集団礼拝の日である。

インシャラー

ジャカルタ 5月15日

Fri. 15 May 1998 20:27:37

世界を震撼させているアナーキーの都市ジャカルタ。今日5月15日の様子をレポートします。

今回も、私の見聞にもとづくレポートです。ジャカルタの状況を克明にお知りになりたければ、マスコミの報道をご覧になってください。

何しろ、私といえば、オフィスから一歩も出ることができない状況下にありますので、昨日のような情報は提供することができません。単調な記録ですが、ひとつの空間から抜け出すことができない人間の心理をお読み下さい。

6:20

電話で起こされる。先月までインドネシアで調査活動にあっていた中央大学の酒井さんから、朝日新聞に私の談話が載っていることを知らせてくれる。Faxで送ってくれるように依頼する。

階下に降りていくと、住み込みお手伝いのスマルニが町内会から安全確保の注意勧告があったことを伝えてくれる。スマルニ情報では、エルランガ界限に住む日本人、韓国人は、ほとんどがホテル等へ避難したようである。

6:30

センター所長の立本さんより電話。東京へ出張する直前とのことで、オフィスが停電になったときの対策など、具体的なアドバイスを受ける。

6:45

高名な経済学者より電話。ジャカルタ市内に滞在中のアメリカ人の手配を依頼される。失礼とは思いつつも、状況が許さないことを説明し、厳しい口調で申し出を断る。

7:00

屋上から街の様子を見る。北の空に煙が上がっている気配はない。

7:30

運転手のジュンピより電話。彼の家の周辺は、

混乱しているとのこと。状況を見てから通勤するかどうかを判断するとの話。いずれにせよ、交通手段のない今、徒歩で通うしかないだろう。

7:40

オフィスに避難している楠田さん（私が一時帰国中のオフィス留守番担当）にお母さんより電話。CNNは、スハルト後継問題についてのディベート番組。

8:00

楠田さんと朝食。通いのお手伝いであるアミニおばさんがまだ来ていないため、スマルニが朝食を用意してくれる。

8:15

大使館の加藤さん（教育アタッシェ）より電話。様子を尋ねてくれ、情報交換をする。

8:30

新聞が届かないため、インターネットで情報を入れる。日経のホームページは、インドネシア特集だけで、プリント6枚分の情報。

8:45

アミニおばさんが出勤してきて、驚く。昨日は、4時半にオフィスを出たが、家にたどり着いたのは9時だったとのこと。彼女が住むクバヨラン・ラマの状況は、すさまじいようである。

「華人の商店や高級マンションまでが焼き討ちにあっている。オートバイに乗っていた華人男性がオートバイから引き降ろされ、身包みをはがれた上、オートバイと衣服が焼かれるという現場に遭遇した」と、興奮しながら語ってくれた。

9:05

センターの河合さんよりファックスが送られる。毎日新聞、京都新聞のインドネシア関連記事で、計17枚。

国内のテレビは、どのチャンネルも民放のANteveの番組になっている。ブラボウォ陸軍戦略予備軍司令官が国軍は一つにまとまっていること

## 現地通信

を主張。その後も、スハルトの娘婿であるブラボウォがしきりにテレビに登場する。

9:30

運転手のジュンピより電話。状況が悪く、今日の出勤できないとのこと。自宅でスタンバイするよう頼む。

9:50

屋上に上がるが変化なし。オフィスの周辺は、実に静か。楠田さんと門の横に掲げた半旗をバックに記念撮影。

10:00

CNN, インドネシアのテレビ放送をみる。いずれも、すでに見たものの繰り返し。

10:30

センターの河合さんに、ファックスを送ってくれたお礼のファックスを送る。インドネシア語紙コンパスとリプブリカの朝刊が届く。コンパス紙は、商店から電気器具を略奪する群集の写真。リプブリカ紙は、火災にあったビルの窓ガラスを割って飛び降りる男の写真。

10:55

ウンディンが金曜礼拝でモスクに出かける。

11:20

インターネットをあける。この時点で14通にのぼる陣中見舞いのメール。ラジオを聞きながら、パソコンのゲーム。

11:30

軍のヘリコプターが低空飛行をし、うるさい。

11:35

大塚インドネシアの上田さんより電話。情報交換をする。電話がつながりにくい状況にあることを指摘される。

フリーセルゲームの勝率談義となり、私が3回に1回はクリアするかなと言ったら、彼女は3回

に2回は成功するとのこと。私の隣でゲームに興じている楠田さんに聞くと、5回に4回はクリアするとのこと。ゲームへの意欲が減じる。

12:00

昼食は、アヤムゴレン（フライドチキン）がメイン。アミニおばさんに聞くと、米、食糧のストックは十分にあるとのことで一安心。

12:10

連絡事務所担当の田中さんより電話。情報交換。センターに来ているウジュンパンダン出身のモカさんは、ジャカルタへ行けないため、デンパサールを経由して帰るとのこと。朝日新聞に出ている私のコメントは大したことはないというので、記事をファックスで送ってもらうことはやめにする。

12:20

そうした折、中央犬の酒井さんより、朝日新聞と日経新聞のインドネシア関連記事がファックスで送られてくる。計19枚。白石さんと自分のコメントを読み比べ、違いを認識する。

12:40

アミニおばさん、別れを告げる。明日、無理だったら出勤しなくていいよと言う。

13:00

朝日新聞の国際衛星版が届く。よく見ると、昨日のもの。

13:15

京都新聞から電話があり、取材に応じる。

13:50

センターの水野さんより電話。暴動がオフィスの位置するクバヨラン・バルまで広がる可能性があるという予想を伝えてくれる。

14:00

国営放送テレビのニュースをじっくり見る。スハルトが早朝、カイロから帰国した。笑顔が

こぼれ、「国民の信頼さえあれば、権力を掌握する」と、強硬な姿勢を変えていないのに、不安をおぼえる。

バスが運行を始めている平穏な町の様子を映し出しているが、信用できない。バスのフロントガラスには、「プリプミ（非華人）・ムスリム」という紙がはられていた。

軍や閣僚が声だかに「平穏」「忍耐」を繰り返している。

15:00

恒例の昼寝。センターの所訓である「有事であれども、寝る子は育つ」に従う。

16:15

大使館の加藤さんよりの電話で起こされる。外務省の「危険信号」が一つグレードアップしたとのお知らせ。日本脱出に関するノウハウを教えてもらうとともに、大使館に新たに設置された電話番号を聞く。

16:20

私の母より電話。米寿を迎える高齢なので、オフィスにいる限り何の心配もいらないと答える。

16:30

民放 Indosiar のニュース番組 Fokus を見る。印象的には、ジャカルタが平静になってきている。武装した軍が装甲車や戦車で市内を制圧している様子が映像となっている。その他は、学校が休校、石油燃料料金の値下げ、ガソリンスタンドが軒並み休業。洗剤のCMが途中にはいる。

16:45

夕刊紙スアラ・ブンバルアンが届く。反スハルト運動のリーダーであるアリ・サディキンやブエン・ナスチオンが手をつないで、ガトックスプロト通りをデモ行進している写真が掲載されている。

16:50

京都の家族に電話をし、心配しないように伝える。

17:00

民放 ANteve のニュース番組 Cakrawala を見る。火災の被害となった焼死体を嫌になるほど見せつけられる。軍人が背中にクリス（霊験あらたかな短剣）をつけているのが印象的。空港は、国外脱出の人で大混乱の様子。

18:00

パソコンで日本の新聞社のホームページを開く。インドネシア関連が少なくなったような気がする。

18:15

夕食。お昼のアヤムゴレンに、スマルニがつくってくれたチャプチャイ（エビ入り野菜炒め）が加わる。

18:30

国営放送のニュース（英語）を見る。雨が降り出す。

19:00

雨が強くなり、稲光。停電をおそれる。

国営放送のニュース（インドネシア語）を見る。アナウンサーに笑顔が戻っているのには、半ばほっとし、半ば不気味。

トップニュースは、クントロ鉱業エネルギー大臣が石油料金の値下げを発表するもの。この大臣、値上げの発表の時には、自殺でもしかねないような表情だったのに、今日は幾分のゆとりがある。後のニュースは、これまで見たものばかり。

19:30

愛国心のある私は、ガルダ・パンチャシラの歌を国営テレビにしたがって歌う。

20:00

大使館の加藤さんより電話。今の段階では外部に漏らしてもらいたくない情報を伝えてくれた。したがって、ここでは省略。

以上が現時点までの日誌です。退屈なメモを最後まで読んで下さり、ありがとうございました。

## 現地通信

陣中見舞いでメールを送ってくださった方、電話やファックスをしてくださった方、そうでない方に、感謝を申し上げます。

雨はあがったようです。明日は、いい日になりますように。

### 日本大使館情報

**Fri. 15 May 1998 23 : 23 : 50**

下記の情報は、インドネシア滞在の日本人の方に特に見ていただきたいことです。

先ほど、日本大使館の加藤敬一等書記官より電話連絡が入りました。

日本政府は、大規模な暴動が起きると予想される5月20日までに在留邦人が日本へ帰国するよう強く要請することを間もなく発表するようです。

具体的な措置としては、5月17日、18日、19日の三日間、JALとANAの臨時便（有料）を出すそうです。至急、チケットの購入あるいは予約の手配をなさることをお勧めします。ジャカルタのJAL支店では混乱が予想されますので、日本において手配されることもご配慮下さい。

また、日本大使館では、新たに電話を開設しています。下記の番号がそれです。

ジャカルタ：324308, 3190877～82

(連続番号で6本)

大使館は24時間体制で対応してくれるそうです。ただ、電話はつながりにくい状況にあることも確かです。

大変な事態になっていますが、慎重な行動をなさるようお祈りします。

**ジャカルタ 5月16日 (1)**

**Sat. 16 May 1998 09 : 36 : 06**

昨夜、大使館の加藤さんから電話連絡があり、急遽、日本政府が準備する臨時便で帰国する方向で動くことになりました。

昨夜から今朝にかけて、ジャカルタ在住の日本人に対して大使館の連絡をまわす作業を進めています。オフィスに避難している楠田さんの協力を得て連絡している対象は、留学生や研究者、企業の

日本人ローカルスタッフなどです。

大使館の連絡網は、ジャパン・クラブを通すものだと聞いています。そうすると、ジャカルタ日本人社会のヒエラルキーの「下位」に属する上記の人たちへの連絡は一番最後になるか、あるいは、まったくなされないといった結果が予想されます。

連絡した結果は、さまざまですが、航空券を購入する資金をもたない留学生が続出しています。日本政府は、臨時便を配慮するといっていますが、それは民間航空機で、有料です。「弱者」は、帰りたいくても帰れない状況が生まれています。

私自身は、東南アジア研究センターに連絡していますが、今日は土曜日。事務職員はどなたも出勤していませんから、電話した当初は困惑しました。幸いなことに国際交流・連絡事務所担当の田中さんが大学に出てきましたので、航空チケットの手配などをお願いしているところです。

朝から電話、ファックスが次々と送られてきており、レポートのための記録をとる余裕がまったくありません。このレポートも、いつ通信インフラが滞るか分かりませんので、細切れでお送りすることになります。

今から大使館へパスポートを取りに出かけますので、第一報はここまでとします。

**ジャカルタ 5月16日 (2)**

**Sat. 16 May 1998 13 : 33 : 06**

情報提供より優先すべき事柄が多いため、緊要な事項のみレポートすることにする。

重要事項：

昨夜お伝えした日本大使館の電話番号が違っていた。正確には下記の通りであり、ファックス番号等も付記する。

TEL : 31900877～31900882

FAX : 31900874, 31900875

<http://www.rad.net.id/eojind>

今朝のメールで大使館批判めいたことを書いたが、いくぶん修正する。大使館で領事部の用務をする合間に、教育アタッシェの加藤さんと話をした。

加藤さんのデスクには、在インドネシア日本人

留学生のリストがあり、連絡業務に忙殺されていた。しかし、いかんせん、一人では業務をこなすことができない。協力することにした。

デポックで日本人の20歳男性が軍の暴行を受け、重傷を受けたという情報（ニュースソース：アジ研石田さん→OECF黒岩さん）、インドネシア大学留学生の居住する地域にも強盗団が襲ってきたという情報（ニュースソース：亜細亜大、UI留学の大谷さん）が入ってきたため、UI周辺に居住する日本人学生を救出することを考えている。具体的には、京都大学東南アジア研究センターの車で連絡事務所まで移動させ、連絡事務所での宿泊を提供することである。大使館には彼らを宿泊するスペースはあるようにみえるが、食事の供与がままならないし、公館ゆえに難しい事情があるだろう。オフィスに宿泊している間に大使館情報等を入れ、事情に応じて日本への帰国便を確保する。やがてJAL、ANAの臨時便が開設されると思うが、現時点では政府発表がない。現在、デポックの日本人留学生への連絡を進めている。

#### ジャカルタ市内の状況

スディルマン通り、タムリン通りは閑散。オフィスは、BCA銀行本店を除いて閉まっている。半旗が掲げられるビルが多い。随所に軍の装甲車が配置されている。戦車、装甲車がときおり走る。

マンパン周辺の商店やスーパーの多くは、窓ガラスが割れ、焼き討ちにあっている商店も少なくない。「プリブミ（非華人）」「ムスリム」の表示がなされている商店は、被害にあっていない。火の手があがっている風景には、出会っていない。

今から再び大使館に出かけるため、レポートはここまで。

#### 臨時便情報：ジャカルタ5月16日（3）

Sat. 16 May 1998 17:10:52

先ほど大使館に出かけ、加藤敬一等書記官より「臨時便についてのお知らせ」を受け取りました。インドネシア在住日本人にお知り合いがあれば、下記の情報を周知していただきますようお願いし



写真2 投石にあった自動車販売代理店  
(1998年5月16日、ジャカルタ・マンパン地区)



写真3 焼くうちにあった華人の商店  
(1998年5月16日、ジャカルタ・マンパン地区)

ます。

【 】内は、西村による補注です。

#### 臨時便についてのお知らせ

1998年5月16日13時

在インドネシア日本大使館

インドネシアから日本へ向かう臨時便が17日から19日【20日早朝を含む】までの間、運行されることになりました。定期便を含む、この3日間の日本へのフライトはつぎの通りです。

JAL 定期便 (JL726) 23:30 {17日~19日}

JAL 臨時便 4:40 {18日~20日}

JAL 臨時便 5:00 {18日~20日}

EGG 定期便 (EG222) 21:20 {17日~19日}

ANA 臨時便 22:35 {17日~18日のみ}

ANA 臨時便 20:50 {19日のみ確定}

## 現地通信

ANA 臨時便 11:50 {18日のみ, 大阪行き}

ANA 臨時便 23:50 {19日のみ, 大阪行き}

1. 航空券の予約方法及び航空料金は通常便と同様です。予約は受付順に行います。

(空港での航空券の予約受付はできませんので、御注意願います。)

予約受付電話番号

JAL :【ジャカルタ+62-21】5723211

ANA :【ジャカルタ+62-21】2521881

2. お荷物は可能な限り少なくしていただくようお願いいたします。

3. また、ヒルトン・ホテル及びプレジデント・ホテルからスカルノ・ハッタ空港までのトランスポートも別紙の通り【下記参照】準備予定ですので、御希望の方は出発前に大使館に確認をして下さい。

空港へのバス

集合場所：ヒルトン・ホテル、プレジデント・ホテル

【集合日、集合時間＝航空会社名、出発日時の順で記す】

17日(日) 16:00集合＝JAL726(定) 17日 23:30発, EG222(定) 17日 21:20発, ANA(臨) 17日 22:35発

17日(日) 23:00集合＝JAL(臨) 18日 4:40発, JAL(臨) 18日 5:00発

18日(月) 6:00集合＝ANA(臨) 18日 11:50発

18日(月) 16:00集合＝JAL726(定) 18日 23:30発, EG222(定) 18日 21:20発, ANA(臨) 18日 22:35発

18日(月) 23:00集合＝JAL(臨) 19日 4:40発, JAL(臨) 19日 5:00発

19日(火) 16:00集合＝JAL726(定) 19日 23:30発, EG222(定) 19日 21:30発, ANA(臨) 19日 20:50発, ANA(臨) 19日 23:50発

19日(火) 23:00集合＝JAL(臨) 20日 4:40発, JAL(臨) 20日 5:00発

## 臨時便の変更：ジャカルタ5月16日(4)

Sat. 16 May 1998 19:50:24

大使館の加藤さんより臨時便の変更についてお知らせがありましたので、お伝えします。

インドネシアから日本へ向かう臨時便が17日から19日までの間、運行されることになりました。定期便を含む、この3日間の日本へのフライト(ジャカルタ出発時刻)は別表の通りです。

1. 航空券の予約方法及び航空料金は定期便と同様です。予約は受付順に行います。空港での航空券の予約受付はできませんので、御注意願います。

18日及び19日のJAL便については、明17日午前8時15分から予約受付を行います。

JAL :【ジャカルタ+62-21】5723211

ANA :【ジャカルタ+62-21】2521881

2. また、ヒルトン・ホテル及びプレジデント・ホテル(御都合の良いホテルをご選択下さい)からスカルノ・ハッタ空港まで、以下の予定でバスが運行されますので、御希望の方は、出発時刻の45分前までにお集まり下さい。(バスご利用の方は、お荷物を可能な限り少なくしていただくようお願い致します。原則として、見送りの方は、バスには乗車できませんので御了解願います。)

集合場所

①ヒルトン・ホテル、エグゼクティブ・クラブ

②プレジデント・ホテル、1階ボール・ルーム

【集合日、集合時間＝航空会社名、出発日時の順で記す】

17日(日) 16:00集合＝JAL726(定期便) 17日 23:30発, EG222(定期便) 17日 21:20発, ANA(臨時便) 17日 22:35発

17日(日) 23:00集合＝JAL(臨時便) 18日 4:40発, JAL(臨時便) 18日 5:00発

18日(月) 6:00集合＝ANA(臨時便) 18日 11:50発

3. これ以降のバス運行(19日まで)は追って御連絡させていただきます。

4. 在ジャカルタ総領事館は、今後の緊急事態に当たり、5月17日(日)、18日(月)及び19日(火)の3日間、臨時便の出発に当たってスカルノ・ハッ

タ空港のカウンターに臨時の総領事館窓口を設置しました。

この窓口では、「帰国のための渡航書」を緊急発給致します。皆様がお持ちになっている日本国旅券で、今、再入国許可取得のため入国管理局に預けてしまった方や、再入国許可が期限切れとなってしまった方、旅券を紛失された方等のために、旅券にかわるものとして発給するものです。従いまして、第3国を経過する場合でも、空港外に出ることは出来ません。パスポートのコピー又は運転免許証を御提示下さい。

なお、総領事の窓口でも扱っております。

**【5/17~19の日本便の状況（定期便+臨時便）】**

アジア航空 EG222（定/関空）

〈17~19日 21:20〉

全日空 NH1962（臨/成田）

〈17・18日 22:35/19日 20:50〉

NH1966（臨/関空）

〈18日 11:50/19日 23:50〉

日本航空 JL726（定/成田）〈17~19日 23:30〉

JL1722（臨/成田）

〈18日 4:40/19日 1:05〉

JL2722（臨/成田）〈18日 5:00〉

JL2722（臨/関空）〈20日 2:30〉

JL4722（臨/関空）〈18日 23:15〉

JL4722（臨/成田）〈19日 21:10〉

**ジャカルタ5月16日（5）**

**Sat. 16 May 1998 23:11:44**

今日は各種の連絡業務に終始したため、マスコミ報道をほとんど見る機会がありませんでした。

夜9時のTVRIニュースをざっと見ただけなのですが、国営放送ということもあり、「社会は平穏を取り戻した」「スハルトは、閣僚をすげ替えるなどの措置によって、改革の要求に応じる」といった報道がなされていました。スハルトのかたくななまでの姿勢に大きな変化はなく、今日の平穏さは、「嵐の前の静けさ」と思えてなりません。大きな嵐が、民族運動の嚆矢であるブディ・ウトモが誕生して90周年記念日を迎える5月20日に起こる

ことは大方の予想ですが、週明けの18日にも、改革の嵐が沸き上がることも考えられます。事態は、いかなる展開をみせるのでしょうか。眠ることのできない夜が続いています。

足を奪われているデボックの日本人留学生についてですが、先ほど大使館の加藤さんから入った連絡によると、大使館がバスを手配し、日本人留学生30人ほどを移動させる動きをみせています。今、留学生の取りまとめをしているサカタ・キョウコさんに電話を入れたところ、留学生は、外出がかなわず、孤立状態にあるとのことでした。

ジョクジャの近郊にいる岩田さんがワルテル（電話屋）から連絡を入れてきました。彼女の場合、ジョクジャからジャカルタへ移動する適当な手段をもっていないため、彼女の新しい家族とその社会に庇護され、この嵐を乗り切るとの決意を話していました。

朝一番のメールで東南アジア研究センターに事務職員のどなたもいなかったというのは、私の情報不足でした。土曜日にもかかわらず詰めていただいたことに感謝します。欠かさず連絡を入れていただいた立本所長、連絡事務所担当の田中さんにも、お礼申し上げます。

色々と思うこともあるのですが、私は、5月20日午前2時半にジャカルタを出発する最終の臨時便で帰国することにしました。

今後も、変わらぬご支援をお願いいたします。

**ジャカルタ5月17日（1）**

**Sun. 17 May 1998 11:42:35**

ジャカルタの朝は、「ティー」というパン売りの呼び声で迎えました。テレビのチャンネルをひねると、子ども番組を流しています。ウッドペッカーに一休さんのアニメ。平和な日曜日の朝です。

しかし、平穏な風景の背後に流れる危険な動きを見失ってはなりません。日本外務省は、今朝9時、「危険信号」を4にあげました。家族等の避難勧告です。これが最も高い「危険信号」の5に上がるのは、間もなくのことかも知れません。

日本大使館の情報によると、明18日朝8時に学生がUIのサレンバ・キャンパスに集結し、国会

## 現地通信

へ向けてのデモ行進を予定しています。19日夜7時から、嵐の日20日に向けての行動を開始するそうです。事態は、最悪のシナリオに向けて展開しているようです。

気がかりなのは、デポックで孤立している日本人留学生です。厳しい言い方をしますと、彼らの状況認識の甘さには、あきれています。再入国問題や航空券購入資金のことばかり考え、帰国を躊躇しています。彼らを弁護するならば、孤立を余儀なくされ、判断する材料がまったくないのかも知れません。

大使館は、救いの手を差し伸べています。人数、時間が確定次第、デポックまで救出用のバスを派遣します。航空券の支払いは、帰国してからでも問題がありません。

アジ研よりの派遣でUIに留学している石田さんやUI留学後ローカルスタッフとして日系企業に勤務している上田さんや楠田さんなどが、いま懸命の努力で、彼らが無事に日本へ帰国できるよう奔走しています。

事態は切迫しています。

大使館の加藤さんより、17日～19日のバス運行表が送られてきました。

17日（日）のバス出発時刻は、16：00と23：00です。

18日（月）は、6：00と16：00です。

19日（火）は、16：00です。

いずれも、集合場所は、①ヒルトン・ホテル、エグゼクティブ・クラブ、②プレジデント・ホテル1階ボール・ルームの2カ所です。

事態が急変することが考えられます。早めに集合するようお願いします。

## 最後のメール

**Sun. 17 May 1998 14 : 13 : 20**

今からホテル・ヒルトンへ避難します。オフィスへ避難している楠田さんも同行します。

Jakarta Hilton International

Phones : +62-21-5703600

Fax : +62-21-5733089, 4733091

パソコンをもって行って、Eメール発信を続けたいのですが、いかんせん、方法が分かりません。五十嵐さんや吉村さんからノウハウを学んでおくべきだったと、この場におよんで反省しています。

ヒルトン・ホテルは、ジャカルタで最も安全なホテルの一つだと聞いていますので、何とかこの状況を乗りきることができるのではないかと思います。

うるわしのインドネシアに在住するどなたもがこの危機を脱することができることを衷心より念じるとともに、愛すべきインドネシア人に一日も早く、幸せな日が訪れることを祈っております。

再見